

(款) 50消防費 (項) 5消防費 (目) 5常備消防費

◎指令業務の経費

指令活動事業

【 指令情報課 】

【総合計画上の位置づけ】

安全で快適な生活が送れるまち

地域安全: 災害対策、交通事故や犯罪などへの安全対策が進められているまち

【事業の目的】

対象 市民等

意図 市民等を各種災害から保護するため。

効果 災害に強い、安心して暮らせるまちづくりを図る。

【事業の内容】

(1) 指令活動事業

- ・ 市民等から各種災害通報を受信し、災害規模や種別に応じた消防・救急隊を選定し出場指令を行った。
- ・ 消防・救急活動を円滑に遂行するための支援業務及び関係機関との連携のための情報伝達業務を実施した。
- ・ 消防救急無線の広域化・共同化及び消防指令業務の共同運用に係る整備計画策定に必要な調査を、県及び県内市町村と共同で行った。

【中事業に含まれる実施計画事業】

消防救急デジタル無線設備等の整備(5-1-4-③)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
40,876	40,876	39,851		1,025
主な支出内訳				
・ 指令活動事業				
指令専用回線等電信料				6,775
無線機保守点検委託料				906
緊急情報システム保守点検委託料				17,853
自動出場指定装置・支援事務処理用コンピュータ賃借料				6,792
消防OAシステム賃借料				3,503
災害緊急情報鎌倉FM負担金				2,000
消防救急デジタル無線電波伝搬調査費負担金				826
主な特定財源				
・ 国県支出金				
				413

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 消防-09 指令活動事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	225 指令活動事業					
		289 指令活動事業					
主管課	警防課(指令情報課)	関連課					
分野名	地域安全						
目標 (目標値)	火災・救急等の災害通報の受信から現場到着までの平均所要時間の短縮を図る。						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	39,851千円	36,169千円	38,714千円			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	39,851千円	36,169千円	38,714千円			
	人員配置数	12.0人	12.0人	12.0人			
	人件費	114,772千円	115,188千円	116,724千円			
事務事業 運営経費	協働の パートナー						
	総事業費	154,623千円	151,357円	155,438円			
	市民1人当 りの経費	876円	860円	888円			
	対象者1人 当りの経費						
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※		
						※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 携帯電話が普及し携帯電話からの119番通報が増加している。 また、鎌倉市は観光地である特殊性から、旅行者等からの地理不案内の119番通報が多く、災害場所の特定に時間を要してしまう事案があった。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 庁舎見学等あらゆる機会を捉え、市民に対し携帯電話からの通報時、災害発生場所の住所等が分からない場合は、目標となる対象物などを伝えて欲しいことや、その場から離れない等注意点について指導した。 また、指令担当職員は管内情勢の把握等、更なる自己研鑽に努め、通報から指令までの時間短縮を図れるように再度徹底した。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 携帯電話からの119番通報に対し、通報者の位置情報が取得できるシステムを、導入ができなかった。
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 21年度、携帯電話からの119番通報に対し通報者の位置情報が取得可能となる機器の導入を行う。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	A	改善の必要性 無
	複雑多様化する消防救急業務に備え、多機能な最新指令機器等の導入を行い、業務処理能力の向上を図りたい。				
担当課長氏名:		原田 健一			

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	A	改善の必要性 無
	消防救急無線の広域デジタル化、消防指令業務の共同運用等、総合的な改革を視野に入れて今後、事業の充実を図りたい。				
担当部名	消防本部	部長名	畑 光則		